

富山医科薬科大学・和漢薬研究所年報 31巻 2004年

Annual Report of Institute of Natural Medicine

Toyama Medical and Pharmaceutical University. Vol. 31, 2004

目 次

巻頭言	1
総 説	
1. コカインと創薬—麻薬からイノヴェイティブな新薬へ—	門脇 真 3
2. Ayurvedic Pharmacopoeia Databases in the Context of Revitalization of Traditional Medicine	Unnikrishnan P.M. 11
各部門・附属センターの活動と業績	
研究所の概要	21
資源開発部門 生薬資源科学分野	22
化学応用分野	31
薬物代謝工学分野	40
病態制御部門 複合薬物薬理学分野	57
病態生化学分野	63
消化管生理学分野	74
恒常性機能解析分野 (客員)	79
臨床科学部門 臨床利用分野	85
附属薬効解析センター	90
漢方診断学部門 (寄付)	97
和漢薬製剤開発部門 (寄付)	111
研究所の活動記録	
2004年の活動記録	119
研究所主催のセミナー・シンポジウム・公開講座など	
第9回和漢薬研究所夏期セミナー	121
第21回和漢医薬学会大会	122
21世紀 COE 国際シンポジウム	123
第25回和漢薬研究所特別セミナー	124
民族薬物資料館一般公開	125
部局間学術交流協定	126
21世紀 COE プログラム	128
新聞記事コピー	129
和漢薬研究所・各分野・配置図	137

表紙の写真

ジソ科の *Scutellaria baicalensis* Georgi コガネバナ, 黄芩, baicalin (モンゴル国ドルノド県にて, 2004年7月15日, 小松かつ子撮影)

黄芩は消炎, 解熱薬などとして用いられる重要な漢薬で, 柴胡と組み合わせて「柴胡剂」, 黄連と組み合わせて「瀉心湯類」と総称される漢方方剤を形成します。小柴胡湯服用時の副作用が問題になった時に, 黄芩の野生品と栽培品の品質の差異が議論されました。黄芩に多く含まれ, 抗炎症・活性酸素捕捉作用のある baicalin は, 腸内細菌により baicalein に代謝されますが, 腸管で再度 glucuronide 抱合され, baicalin になります。この循環過程の生化学的検討が進んでいます。